

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4603		
科目名	ゼミナールⅢ		
担当教員	中村 良		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 4		
講義室	1402	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP7-L〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP5-J〔創造的挑戦力・達成力〕 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6-K〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP8-M〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 DP4-F〔探究力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP2-B〔自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢〕 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。 DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（20%） L1 チームワーク（20%） J1 継続的学習基盤（15%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） M1 統合的・応用的学修（10%） F2 課題解決（10%） B1 自己啓発（5%） C1 倫理的思考・社会認識（5%） I1 理解・分析と読解（5%）		
教員の実務経験	■ありません。		
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		

科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、卒業論文につながる個人研究に関して、実際に歴史文献の収集や、社会調査、事例分析や法学的検討など実証的な研究活動を通じて、オリジナルの一次資料による個人研究の作業を開始し、指導します。授業形態は(講義・実技・実習・演習)形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 会社、企業、契約、不法行為、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、企業不祥事	
授業の趣旨	■副題 「企業不祥事」事例から学ぶ予防と事後対応について考察し、卒業論文のテーマを決定します。 ■ゼミナールの目的 実施に起きた「企業不祥事」事例を学修し、必要な法的知識を確認するとともに卒業論文のテーマを決定することを目的とします。 ■ゼミナールのポイント 実際の「企業不祥事」の背景、対応、その後を検討します。 ■卒業論文のテーマを決めるために 「企業不祥事」を予防する会社法の諸規定についてレポートが書ける（2回、3回）。 具体的「企業不祥事」事例を検討し、卒業論文のテーマを決定できる（4回―15回）。	
総合到達目標	■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える法学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析することができる。 ・研究方法や研究論文の進め方について理解できる。（第1回） ・問題点や論点を探究し、自らの見解を持つことができる（第2回～第8回） ・問題意識を持ち、探究することができる（第2回～第8回） ■論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を卒業論文にまとめ、適切に表現することができる。 ・自らの見解を証明するための文献や資料収集することができる（第9回～第15回） ・文献の読み方や資料の解釈などを修得する（第9回～第15回）	
成績評価方法	■成績評価手段 実技・パフォーマンス各自2回（50%）：適用ルーブリック：E1・G1・K1・M1・B1・C1・I1 （評価方法）様々な社会上の憲法問題を認識し、その中から自らの問題意識をもち、その問題の構造を理解し、状況を把握できているか、その問題に対して卒論に向けて目的を持ち、いかに内容を展開させていくか、アイデンティティーを確立し、条文を解釈し、他者との議論を通じて自らの見解を確立できているか評価します。 （フィードバック）授業時間内に解説を実施し、テーマの適切性、仮説の妥当性について講評します。 ■授業参加度15回（50%）：適用ルーブリック：E1・L1・G1・K1・M1・B1・C1・I1 （評価方法）他者の研究内容を通じてまず自らの知識を取り出し、活用しているか、またその研究の結論が妥当であるかどうか、対立点の発見や解消、最適化を議論を通じてなされているか、評価します。他者の研究内容は自分には関係ないという姿勢ではなく、全員で研究内容について検討し、議論しているか、評価します。 （フィードバック）各自の意見が妥当なものか、議論が適切になされているか、参加しているかの態度について講評します。	
履修条件	■ありません。	
履修上の注意点	■積極的に議論に参加して下さい。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス（全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション ②授業概要 （ガイダンス）授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 （イントロダクション）研究方法（E1・J1）、プレゼンの手法（K1・M1）、議論の方法（L1・B1） ③予習（120分） ゼミナールⅠで設定した研究テーマと文献について確認し、ゼミナールⅡで進めた研究内容を確認しておく。 ④復習（120分） ゼミナールⅢの概要と到達目標を確認し、何を習得すべきなのか確認する。

2	①授業テーマ 卒業論文に関するプレゼン① ②授業概要 ゼミナールⅡで発表した際の議論で指摘されたことなどを修正して研究発表してもらいます。発表担当者は自らが設定した卒業論文のテーマにゼミナールⅠやⅡで議論を反映した内容に再構築してきてもらいます。改めて問題意識、問題提起、仮説、仮説の立証、そして用いる参考文献などについてプレゼンをしてもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表担当者以外は、内容について矛盾などがないか、不足していることがないか、論点がずれていないかなどチェックし、疑問があれば質問し、議論を深めてもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習(120分) 今までやってきた作業を再確認し、各自パワーポイントにまとめてもらう。 ④復習(120分) 授業で指摘されたこと、疑問を呈されたことを確認し、修正をする。
3	①授業テーマ 卒業論文に関するプレゼン② ②授業概要 ゼミナールⅡで発表した際の議論で指摘されたことなどを修正して研究発表してもらいます。発表担当者は自らが設定した卒業論文のテーマにゼミナールⅠやⅡで議論を反映した内容に再構築してきてもらいます。改めて問題意識、問題提起、仮説、仮説の立証、そして用いる参考文献などについてプレゼンをしてもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表担当者以外は、内容について矛盾などがないか、不足していることがないか、論点がずれていないかなどチェックし、疑問があれば質問し、議論を深めてもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習(120分) 今までやってきた作業を再確認し、各自パワーポイントにまとめてもらう。 ④復習(120分) 授業で指摘されたこと、疑問を呈されたことを確認し、修正をする。
4	①授業テーマ 卒業論文に関するプレゼン③ ②授業概要 ゼミナールⅡで発表した際の議論で指摘されたことなどを修正して研究発表してもらいます。発表担当者は自らが設定した卒業論文のテーマにゼミナールⅠやⅡで議論を反映した内容に再構築してきてもらいます。改めて問題意識、問題提起、仮説、仮説の立証、そして用いる参考文献などについてプレゼンをしてもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表担当者以外は、内容について矛盾などがないか、不足していることがないか、論点がずれていないかなどチェックし、疑問があれば質問し、議論を深めてもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習(120分) 今までやってきた作業を再確認し、各自パワーポイントにまとめてもらう。 ④復習(120分) 授業で指摘されたこと、疑問を呈されたことを確認し、修正をする
5	①授業テーマ 卒業論文に関するプレゼン④ ②授業概要 ゼミナールⅡで発表した際の議論で指摘されたことなどを修正して研究発表してもらいます。発表担当者は自らが設定した卒業論文のテーマにゼミナールⅠやⅡで議論を反映した内容に再構築してきてもらいます。改めて問題意識、問題提起、仮説、仮説の立証、そして用いる参考文献などについてプレゼンをしてもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表担当者以外は、内容について矛盾などがないか、不足していることがないか、論点がずれていないかなどチェックし、疑問があれば質問し、議論を深めてもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習(120分) 今までやってきた作業を再確認し、各自パワーポイントにまとめてもらう。 ④復習(120分) 授業で指摘されたこと、疑問を呈されたことを確認し、修正をする。
6	①授業テーマ 卒業論文に関するプレゼン⑤ ②授業概要 ゼミナールⅡで発表した際の議論で指摘されたことなどを修正して研究発表してもらいます。発表担当者は自らが設定した卒業論文のテーマにゼミナールⅠやⅡで議論を反映した内容に再構築してきてもらいます。改めて問題意識、問題提起、仮説、仮説の立証、そして用いる参考文献などについてプレゼンをしてもらいます（E1・J1・K1・

	M1・B1・C1・I1)。発表担当者以外は、内容について矛盾などがないか、不足していることがないか、論点がずれていないかなどチェックし、疑問があれば質問し、議論を深めてもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習(120分) 今までやってきた作業を再確認し、各自パワーポイントにまとめてもらう。 ④復習(120分) 授業で指摘されたこと、疑問を呈されたことを確認し、修正をする。
7	①授業テーマ 卒業論文に関するプレゼン⑥ ②授業概要 ゼミナールⅡで発表した際の議論で指摘されたことなどを修正して研究発表してもらいます。発表担当者は自らが設定した卒業論文のテーマにゼミナールⅠやⅡで議論を反映した内容に再構築してきてもらいます。改めて問題意識、問題提起、仮説、仮説の立証、そして用いる参考文献などについてプレゼンをしてもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表担当者以外は、内容について矛盾などがないか、不足していることがないか、論点がずれていないかなどチェックし、疑問があれば質問し、議論を深めてもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習(120分) 今までやってきた作業を再確認し、各自パワーポイントにまとめてもらう。 ④復習(120分) 授業で指摘されたこと、疑問を呈されたことを確認し、修正をする。
8	①授業テーマ 卒業論文の執筆に向けて ②授業概要 卒業論文の執筆に向けて、その内容について目次を作成し、各章ごとのポイントを整理します。具体的には各章ごとで証明したい内容、その章の内容にかかわる論点、学説の状況、判例上の解釈についてのまとめ方を指導します（E1・J1・M1・B1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文のテーマに関する学説や判例を理解しておくこと。卒業論文の内容について目次を立てる。 ④復習（120分） 授業の内容を踏まえて、各自が構築してきた卒業論文の構成やポイントについて確認しておく。
9	①授業テーマ 卒業論文の内容に関するプレゼン① ②授業概要 発表担当者は卒業論文の内容について、目次を作成し、各章ごとのポイントを整理してもらいます。具体的には各章ごとで証明したい内容、その章の内容にかかわる論点、学説の状況、判例上の解釈についてプレゼンしてもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表担当者以外は、その者のプレゼン内容について質問し、あるいは不足していることを指摘し、発表担当者とは見解が異なる場合は議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文のテーマに関する学説や判例を理解しておくこと。卒業論文の内容について目次を立てる。 ④復習（120分） 授業の内容を踏まえて、各自が構築してきた卒業論文の構成やポイントについて確認しておく。
10	①授業テーマ 卒業論文の内容に関するプレゼン② ②授業概要 発表担当者は卒業論文の内容について、目次を作成し、各章ごとのポイントを整理してもらいます。具体的には各章ごとで証明したい内容、その章の内容にかかわる論点、学説の状況、判例上の解釈についてプレゼンしてもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表担当者以外は、その者のプレゼン内容について質問し、あるいは不足していることを指摘し、発表担当者とは見解が異なる場合は議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文のテーマに関する学説や判例を理解しておくこと。卒業論文の内容について目次を立てる。 ④復習（120分） 授業の内容を踏まえて、各自が構築してきた卒業論文の構成やポイントについて確認しておく。

11	①授業テーマ 卒業論文の内容に関するプレゼン③ ②授業概要 発表担当者は卒業論文の内容について、目次を作成し、各章ごとのポイントを整理してもらいます。具体的には各章ごとで証明したい内容、その章の内容にかかわる論点、学説の状況、判例上の解釈についてプレゼンしてもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表担当者以外は、その者のプレゼン内容について質問し、あるいは不足していることを指摘し、発表担当者で見解が異なる場合は議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文のテーマに関する学説や判例を理解しておくこと。卒業論文の内容について目次を立てる。 ④復習（120分） 授業の内容を踏まえて、各自が構築してきた卒業論文の構成やポイントについて確認しておく。
12	①授業テーマ 卒業論文の内容に関するプレゼン④ ②授業概要 発表担当者は卒業論文の内容について、目次を作成し、各章ごとのポイントを整理してもらいます。具体的には各章ごとで証明したい内容、その章の内容にかかわる論点、学説の状況、判例上の解釈についてプレゼンしてもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表担当者以外は、その者のプレゼン内容について質問し、あるいは不足していることを指摘し、発表担当者で見解が異なる場合は議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文のテーマに関する学説や判例を理解しておくこと。卒業論文の内容について目次を立てる。 ④復習（120分） 授業の内容を踏まえて、各自が構築してきた卒業論文の構成やポイントについて確認しておく。
13	①授業テーマ 卒業論文の内容に関するプレゼン⑤ ②授業概要 発表担当者は卒業論文の内容について、目次を作成し、各章ごとのポイントを整理してもらいます。具体的には各章ごとで証明したい内容、その章の内容にかかわる論点、学説の状況、判例上の解釈についてプレゼンしてもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表担当者以外は、その者のプレゼン内容について質問し、あるいは不足していることを指摘し、発表担当者で見解が異なる場合は議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文のテーマに関する学説や判例を理解しておくこと。卒業論文の内容について目次を立てる。 ④復習（120分） 授業の内容を踏まえて、各自が構築してきた卒業論文の構成やポイントについて確認しておく。
14	①授業テーマ 卒業論文の内容に関するプレゼン⑥ ②授業概要 発表担当者は卒業論文の内容について、目次を作成し、各章ごとのポイントを整理してもらいます。具体的には各章ごとで証明したい内容、その章の内容にかかわる論点、学説の状況、判例上の解釈についてプレゼンしてもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表担当者以外は、その者のプレゼン内容について質問し、あるいは不足していることを指摘し、発表担当者で見解が異なる場合は議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文のテーマに関する学説や判例を理解しておくこと。卒業論文の内容について目次を立てる。 ④復習（120分） 授業の内容を踏まえて、各自が構築してきた卒業論文の構成やポイントについて確認しておく。
15	①授業テーマ ゼミナールⅢのまとめ ②授業概要

	卒業論文の内容について、目次、ポイント、論点、学説の状況、判例上の解釈について確認します（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） ゼミナールⅢで修正した卒業論文の内容について確認してくる。 ④復習（120分） 議論したこと、指摘されたことを踏まえて、改めて卒業論文の内容について適宜修正する。
関連科目	「企業組織と法」（RMGT2352）、「企業統治と法」（RMGT2353）、「民事法Ⅰ」（RMGT2341）、「民事法Ⅱ」（RMGT2342）、「民事法Ⅲ」（RMGT2343）、「民事手続と法Ⅰ」（RMGT2371）、「民事手続と法Ⅱ」（RMGT2372）、「犯罪と法」（RMGT2331）、「企業コンプライス論」（RMGT3307）、「特殊講義（経済法）」（RMGT2392）
教科書	■配布資料および判例六法を毎回持参して下さい。
参考書・参考URL	■ゼミナール中に適宜説明します。
連絡先・オフィスアワー	■オフィスアワー 改めてご連絡します。メールで質問される場合は、nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp までお願いします。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%：パブリックセキュリティー25%：グローバルセキュリティー25%：情報セキュリティ25% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学50%：法学50%

